

## 「パン種を取り除く」 ～あなたの免疫は作用していますか？～

出工 12:1～16

私たちの体は絶えず学習しています。体に敵が入ってくると排除し、再びその敵が入ってくると即座に排除できる免疫機能が備わっています。ところが私たちの霊やたましい、感情は何度も同じことを繰り返します。なぜかという体は体が勝手に免疫機能を働かせますが、たましいは神さまと一緒に私たちが免疫機能を働かせなくてはなりません。自分で制御しなければならない部分を制御し、それを自分で神さまの元へもって行かなくてはなりません。そして同じ失敗を繰り返さないようになるのです。悪魔からの誘惑(感情や弱い部分が攻撃)された時、私たちはどう対応しているでしょう？本来私たちが感情的になるべきでは無いことに反応してしまうこと…これが免疫機能で言うアレルギーです。本来は何でもない普通のことです。ところが普段私たちがもっている神さまの前で正しくない部分がアレルギー反応を起こして本来は何でもない普通のこと過敏に反応して大暴れしてしまうのです。体の免疫機能なら1回経験すると終わるのですが感情はおさまらず何度もアレルギー反応を繰り返してしまいます。今日本では2人に1人は癌になると言われています。体は良い食べものを食べていれば健康ですが悪い食べものを食べると不健康になります。そしてその悪い食べものから摂取したものはずっと細胞に残りそれは細胞が新しく作られても消えずに残ります。それが癌化する…これが発癌の仕組みです。神さまは霊もたましいも肉もみな神さまに似せて同じようにつくられました。体がこうであれば心も感情も同じです。だからたましいと感情は連動しています。私たちが見聞きするもので感情がどう動くのか、これを制御しなくてはなりません。私たちが普段、どういう状況に自らの環境をおいているのかが大切です。普段の生活で溜まったストレスなど不要因子をデトックスすることが大切です。癌細胞が私たちの体をむしばむ状態を聖書では「からし種」「パン種」で表現しています。小さな一粒の種がからだ全体をおかす…このように表現しています。私たちの体では癌細胞をNK細胞が排除していますが、心の癌細胞を排除するのは御言葉です。神さまの言葉・御言葉が私たちの心に入ってくる癌細胞(神さまの目にふさわしくない感情など)を排除してくれます。だから聖書でイエスさまは『「人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言葉による」と書いてある』とされています。(マタイ4:4)私たちの環境には心を癌化させる要因がたくさんあります。その因子を排除できる・新しく再生できるのは御言葉だけです。聖書を読むだけでなく読んだ後神さまと語り合う…その中で私たちは新しくされます。今回の聖書箇所です(出工12:1～16)。このようにして私たちは罰とのろいから免れる、種のないパンを食べる習慣を身につけています。パン種を取り除き、私たちの免疫を作用させるために**①目的を失うな!**。本来の目的を失うと自分が何のために存在しどう働くのかを忘れてしまいます。だから新しくなるのも止めてしまいます。私たちの本来の目的は「生きて神の栄光をあらわす」ことです。神さまが私たちをつくり存在して、私たちが神さまから受けた愛を流しあらわすことで神さまが私たちをとおしてあらわれます。この神さまの姿をあらわすことが神さまが私たちに与えられた本来の目的です。そして私たちの内側に神さまがあらわされると神さまを知らない多くの人が私たちから神さまを見いだすことができます。そのことによって私たちは新しくされ、太陽の光を反射する月の光のように輝くことができます。自分のため・自分で自分を光り輝かせたいと思うと相手に反射している光を奪って輝かせようとします。人と比較して罪を犯してしまいます。だから神さまに、自分のために生きるのではなくキリストのために生きることを祈っていきましょう。そして**②神を恐れよ!**。目的を見失わないために必要なことです。『「主を恐れることは知識の初めである」』(箴言1:7)とあります。私たちが長い間生きるのは神を恐れることを学ぶためです。聖書で言う「神を恐れる」は罰が与えられるから恐れるという意味ではありません。私たちが恐れる理由は「神さまは私たちのことを全て知っている」からです。私たちがどれだけ隠しても心を閉ざしても、心の内にある汚れを神さまは全て知っています。この汚れを清めるためにイエスさまは十字架にかかられました。そして神さまはいつも深い呻きをもって私たちをとりなしてくださっています。私たちは神さまに祈られています。それなのに一時のマイナスな感情で目的を失い、神さまが全てご存じだということも忘れて罪を繰り返してしまいます。そして自分のプライドのためにそれを保とうとしてしまいます。悔い改めないことは一番の罪です。神さまを恐れるということは素直に「ごめんなさい」と言うことです。(ルカ12:1～10)私たちが暗やみで言ったことが、明るみで聞かれ、家の中でささやいたことが、屋上でいいひろめられます(3節)。だから私たちは言葉・感情を制御しなくてはなりません。私たちが感情で失敗した時には必ずその場にイエスさまがおられます。そこで神さまに悔い改めの祈りをするのです。それが神さまを認めることとなります(8節)。失敗して神さまを恐れた後にとる行動で真価が問われます。人々の前でダビデのように(詩篇51篇)イエスさまを認めて悔い改めましょう。そして**③罪に対して敏感に!**～軟化するな～なりなさい。人間の体は免疫機能で同じ敵に体を蝕まれません。私たちの心も一度失敗した罪(敵)に対して敏感でなければなりません。失敗の原因はいつも同じです。同じ失敗・罪を繰り返しているとこれらを軟化させてしまいます。1回目の失敗はすごく反省しますが2回目・3回目と回を重ねるとアレルギー反応が起きて自分を正当化し始めます。だから罪に対して敏感になりましょう。自分の心に目を向けて、同じ罪が指摘されたと言うことは神さまが涙を流して十字架の上で私たちに正せと言われて知っていることを知しましょう。(Iコリ5:6～8)私たちは罪を取り除いていかななくてはなりません。罪を取り除く方法は悔い改めです。私たちは何度も同じ過ちを犯してしまいます。その時には、体の迅速な免疫機能と同じように神さまの御前で「主よ赦してください」と悔い改めましょう。そして相手がいる場合は相手にも悔い改めていることを伝えましょう。(ガラ5:7～10)私たちの心をかき乱すものはさばきを受けます。「からだの一部を失っても、からだ全体ゲヘナに投げ込まれるよりは、よいからです」(マタイ5:29)とあります。私たちは妨害の中にあってもかき乱されず静まることができます。だから私たちはかき乱されないようにしましょう。(要約者：行司 佳世)